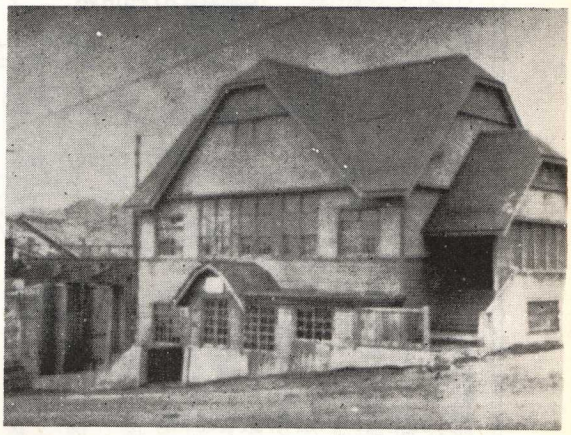
留萌鉄道会社の発足

留萌市史……㉔



臨港線西留萌駅

留萌鉄道会社の創立は、昭和三年六月、開業は五年七月であった。

本社は創立当時、東京市京橋区銀座西七丁目五番地、現在は沼田町字恵比島六四一である。

事業目的は地方鉄道業（旅客貨物の輸送）であった。

北海道開発の必要上築設した留萌港の使命達成の一翼として、雨竜炭田の開発、石炭の積み出しを目的として、留萌鉄道株式会社は留萌港の南北岸に臨港鉄道線と高架桟橋並びに船積施設を作り、一方恵比島、昭和間に炭砿鉄道線の営業を開始したが、昭和十六年十月、戦時国家の必要上から、臨港線と高架桟橋や荷役設備一切を政府に買収され、今では恵比島、昭和間の炭砿鉄道線となった。

開業当時は、日本国有鉄道（当時鉄道省）に列車運転管理、機関車乗務員および車掌などを委嘱して営業を続けた。

しかし、時代の進展に伴なって内燃機関による運送施設の改善に着目して、昭和二十七年五月、内燃機関を新造し、旅客輸送の一部を自社運転、なお気動車を増備した。

昭和三十五年十一月には、三十年間にわたり、国有鉄道の委託輸送を廃し、自力による列車運転経営に切り替えることになった。

この間には、昭和二十二年一月終戦時の財閥解体に関する勅令第五六七号公布によって、取締役社長には専務田渕助六が就任した。

留萌海陸会社が営業開始

留萌海陸連絡株式会社は、昭和二年七月着工され、十一月竣工し営業が開始された。

その目的は／貨物輸送の臨海線の布設／上屋倉庫の建設／海陸輸送に関する各種事業などであった。

この会社は、留萌鉄道株式会社の前身と見るべきもので、港の利用は一日もゆるがせにできないことから、町有志の五十嵐億太郎、内堀博治、対馬藹、古城梅吉、鳥海直隆らによって実現、社長には鳥海直隆が就任した。

留萌鉄道会社が昭和五年七月、営業を開始するまで、留萌港の輸送に貢献したが、同社は留萌鉄道会社に吸収合併された。

ついで、上屋倉庫が三棟建設され、貨物の保管にあたったが、同社社長には、旭川の人松岡港之助が就任した。

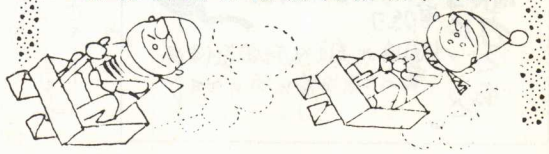
（留萌市史《築港と大留萌建設》は今回をもって終ります）

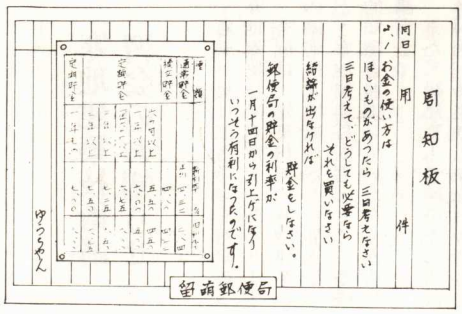
昭和49年2月号／編集・発行　留萌市企画広報室／印刷　留萌印刷株式会社

憲章は私たちみんなのマチづくりの目標です

留萌市民憲章

一、海の資源や山の緑を大切にして、美しいまちにしよう
一、人に迷惑をかけず公共の物を大切にして清潔なまちにしよう
一、きまりを守り、みんなでたすけ合う秩序あるまちにしよう
一、働くことによろこびをもって、仕事に精を出し豊かなまちにしよう
一、丈夫なからだとあかるい心をもち、平和なまちにしよう



明日の暮らしを大きく築く

定額貯金